

## 2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年 9月 25日
- 事業名 : 子どもとおとなのエンパワメント事業
- 資金分配団体 : 一般財団法人大阪府人権協会
- 実行団体 : NPO 法人えんぱわめんと堺

### ① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
子どもワークショップ実施	子どもが権利を知り、自分を大切に する。 子どもが気持ちや意見を表明し、 おとなが子どもの声を聴く。	放課後等デイサービス、学童保育、 子ども園の子ども計100名。	2023年3月まで	7月予定の子ども園がコロナで12 月に延期。 放課後等デイサービス、学童保育は未 定。	3
ガイドブック販売	講座・研修でガイドブック販売し、 エンパワメンターへ興味・関心を持つ 支援者を増やす。	2022年度200冊販売予定	2023年3月まで	現在120冊販売済み	2
ガイドブックを活用した研修の実施	「エンパワメンター講座」を実施し、 子どもの権利を学ぶ。子どもの権利を 尊重したエンパワメンターの技能スキ ルを身につける。	年間5ワーク開催。 各講座で毎回20名の支援者を集める	2023年2月	5ワーク中2ワーク（6月、8月） 実施済み。 参加者20名。	2

子ども支援者対象エンパワメント講座の実施	「“子ども支援”エンパワメント講座」を開催。ジェンダー、子どもの権利、特別支援、遊び、暴力について学び、エンパワメントの関わりができる支援者を増やす。	年間5回開催。 各講座で20名の支援者を集める	2023年2月まで	5ワーク中2ワーク(7月、8月)実施済み。 参加者30名。	2
メインターゲット(放課後等デイサービス、学童保育、子育てひろば)の子ども支援者対象講座	子ども支援者に子どもの権利条約の周知と理解。また、各施設の課題や要望も折り込み、子どもの権利を尊重したエンパワメントの関わりができる支援者を増やす。	年間10ワーク開催。(無料講座。会場費、資料代は有料)	2023年3月まで	10ワーク中6ワーク分実施決定。 第1回目35名参加。	2

\*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

## ② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
次年度からハイブリッドでの講座も視野に入れ、オンライン用の機材を購入予定。 また、講座の申し込みや管理もしやすくするために Peatix も導入しはじめている。

## ③ 広報（※任意）

- 1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）  
自団体のフェイスブック  
大阪府人権協会 WEB にて講座案内  
広報誌「ふえみん」のインタビューを受けガイドブックを紹介
- 2.広報制作物等  
自団体会員向け広報誌「ES の樹」
- 3.報告書等

## 2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

### 評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	事前・中間・事後評価	有田 雅恵	NPO 法人えんぱわめんと堺 副代表理事
内部	事前・中間・事後評価	北野 真由美	NPO 法人えんぱわめんと堺 代表理事
内部	事前・中間・事後評価	塩崎 司	NPO 法人えんぱわめんと堺 スタッフ
内部	事前・中間・事後評価	堀口 博子	NPO 法人えんぱわめんと堺 副代表理事

### A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

#### ① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
子ども	子どもの権利について知り、自分を大切にできる	子ども園、学童保育、放課後等デイサービスの子ども 100 名	2023 年	今まで子どもの権利について学ぶ機会がなかったが、権利を学び、一人ひとりを大切にされる体験をすることで子どもが自分自身を大切にできるようになってきている。 コロナ禍で 7 月に実施できなかったこども園は双方で協議、日程調整し、12 月に延期した。
子ども	子どもが自分の気持ちや意見表明ができる	子ども園、学童保育、放課後等デイサービスの子ども 100 名	2023 年	今まで自分の気持ちを表現できなかった子どもが自分の気持ちや意見を言えるようになっている。

子どもに関わる支援者(学童保育、放課後等デイサービス、子育てひろば)	子どもの話を聴くことができる	子ども園、学童保育、放課後等デイサービス、子育てひろばの支援者 200 名	2023 年	子どもには「聴いてもらえる権利」があることを学び、子どもの話をしっかりと聴くことで、子どもの安心感につながることを意識し始めている。
子どもに関わる支援者(学童保育、放課後等デイサービス、子育てひろば)	子どもの権利に意識を向けることができる	子ども園、学童保育、放課後等デイサービス、子育てひろばの支援者 200 名	2023 年	おとなも子どもの権利を知ること、子どもへの関わり方を見直すきっかけになる。 子どもへの見方や接し方など今後意識しようと考えている支援者も増えている。
子どもに関わる支援者(学童保育、放課後等デイサービス、子育てひろば)	エンパワメントとして子どもを肯定的に見ることができる	子ども園、学童保育、放課後等デイサービス、子育てひろばの支援者 200 名	2023 年	自分の見えない言動や固定観念に気づき、子どもを肯定的に見ることを意識しようとしている支援者が増えてきている。
子どもに関わる支援者(学童保育、放課後等デイサービス、子育てひろば)	エンパワメントとして子どもの権利を尊重した関わりができる	子ども園、学童保育、放課後等デイサービス、子育てひろばの支援者 200 名	2023 年	子どもの権利を尊重していくために、子どもの声、意見、気持ちを聴き、権利が守られていない状態についても一緒に考えていく支援者の姿勢が感じられる。
子どもに関わる支援者(学童保育、放課後等デイサービス、子育てひろば)	支援者の気持ちが必要になり、ストレスが軽減される	子ども園、学童保育、放課後等デイサービス、子育てひろばの支援者 200 名	2023 年	講座の中で支援者同士が話し、聴き合える時間が支援者をエンパワーし、ストレス軽減にもつながっている。 また、そのことで子どもの権利が守られる関わり方をしていく支援者が増えている。



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</li><li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</li><li><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</li><li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</li><li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</li></ul> <p>と自己評価する</p>	<p>講座修了後の感想やインタビューでは、子ども支援者が、子どもの声を聴くことの大切さ、子どもの権利を尊重した関わり方に意識をむけていく、子どもの気持ちや考えを否定しないなど子どもを権利の主体として尊重していこうと努力していく姿勢が多数見られた。</p> <p>また、エンパワメント講座の問い合わせや、受講後も継続を希望する団体もある。</p> <p>意図した事業対象者（学童保育、放課後等デイサービス、子育てひろばなど）がもっと参加しやすい、日程をできるだけ協議していき、たくさんの受講を促していき、エンパワメントを増やしていきたいと考える。</p>

## B) 事業の改善状況の評価

### ① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	当初設定された目標に対し、課題として想定されていた事項の解消に向けた活動の進捗は順調か	支援者のニーズに特化した講座を企画（20講座）し、順調に実施されている。	事前アンケートで子どもの権利や子どもの関わり方について調査し、子どもに関わる支援者の課題を抽出し、ニーズに合わせた講座を企画した。 講座参加に関しては開催日程を検討する必要がある。今後ある。
実施状況の適切性	意図した対象者（放課後等デイサービス、学童保育、子育てひろばスタッフ）に事業（講座）は届いているか	おおむね届いている。	開催曜日、時間によっては受講者が集まりにくいこともあったが、講座の中では参加者の気づきや多くの学びがあると感じている。
実施状況の適切性	おとなからみた子どもたちが聴いてもらえる体験から、自分の意見や気持ちを表明できるようになったか	気持ちや、意見表明につながっている	子どもワークショップの様子を支援者が客観的に見ることで、今まで自分の気持ちを表現できなかった子どもが自分の気持ちや意見を言えるようになっている様子を見ている。
実施状況の適切性	事業目標の達成の見込みはあるか？	見込みはある	講座受講者は、終了後のアンケートで、個々に自身の振り返りや気づきを記述している。自分もエンパワメントを目指したいという支援者も少しずつ増えてきていると感じている。
実施状況の適切性	子どもが権利を知ることによって自信につながったか	つながっている	子どもが権利を知り、ワークショップの中で受容され、大切にされる体験から、自信を持って何度も挙手し、意見を言える子どもが増えている。

実施状況の 適切性	支援者が子どもの権利を尊重することで、子ども理解につながり子ども観が変化したか	子どもの見方の変化がある	子どもワークショップを客観的に見ることで普段とは違った子どもの様子を見ることができ、子どもを肯定的に見るようになってきている。また、ガイドブックの「ここから」を読んだり、講座の中でこれを題材に考えたりすることで、子ども観の変化もある。
実施状況の 適切性	子どもの権利に意識を向ける支援者が増えているか	少しずつ増えている	講座のプログラムは子どもの権利をベースに作成している。受講者は毎回アンケートで自身を振り返ることで、少しずつ意識を向けている。
実施状況の 適切性	支援者がエンパワメントの関わりのためのスキルを習得できているか	技能スキルを学んでいる	講座の中で、受講者同士の話し合い、ファシリテーションの体験、アクティビティーで学びを深めており、習得につながっていると感じている。
実施状況の 適切性	支援者が子どもの声を聴けるようになることで、子どもとの信頼関係が深まっているか	安心感から信頼関係につながる努力がなされている	子どもの声を聴くことが支援者としての基本姿勢であることを、ガイドブックや講座の受講で学び、実際に行動していくことで子どもとの安心な関係が築け、さらに子どもとの信頼関係につなげていこうとする支援者が増えている。
実施状況の 適切性	支援者が気持ち楽になり、ストレスが軽減されたか	少しずつ軽減されている	講座内で支援者同士が交流することでお互いのしんどさを共有できたり、エンパワーされ、そのことから子どもへのよりよい関わり方ができるように努力している支援者が増えている。
実施をとおした 活動の改善、 知見の共有	講座開催において、コロナ禍における対策はなされているか	対策はなされている	オンライン用の機材を購入し、オンラインも友好的に活用していく計画をたてている。また、メンバー間でオンライン接続のための勉強会も実施している。
組織基盤強化・ 環境整備	組織の財政体制の成長につながっているか	少しずつだがつながっているが、さらに努力が必要	昨年度1年かけてガイドブックを作成。ガイドブック販売をきっかけに、自団体は収益事業をおこなっている。現在約120冊販売。講座の受講料やガイドブック売り上げが自団体の収益に少しずつつながっている。



組織基盤強化・ 環境整備	新たに構築された人や団体とのつながりや連携があるか	新たな団体とのつながりが広がっている	人権 NPO 協働助成事業の資金分配団体（大阪府人権協会）が橋渡しをしてくれ自団体と同じ堺市の団体とつながった。 また、今までつながりが持ちにくかった学童保育との連携や、新たな福祉施設ともつながった。
-----------------	---------------------------	--------------------	---

## ② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

講座ごとのアンケートでは、毎回、自分自身の振り返りや気づきが多く書かれている。新たな学びや価値観の変化も多くあり、助成金事業のメインターゲットだけではなく、自団体のメンバーも共に学び合うことでエンパワメンターを増やすことにつながっていると感じている。また、当初、助成金事業のターゲットではなかった教職員にもエンパワメンター育成に共感してくれる人が増えている。

子どもの権利をベースに、個々の施設や学校の課題に応じたプログラムを提供しているのも大きいと感じる。

## ③ 事前評価時には想定していなかった成果

ガイドブックのSTEP1「ここから」が教職員に響くことが多くあり、子どもを決めつけず、子どもの否定的な行動の背景にも向き合い、子どもの権利を尊重したエンパワメントの関わりが大切ということに共感される教職員が増えている。



## ④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</p> <p>と自己評価する</p>	<p>事業初年度に作成したガイドブック販売については、もう少し売り上げを伸ばしたいと考えている。計画した講座については短期アウトカムにつながる適切なテーマであるが、今後も広報活動を幅広く行ない受講者を増やしていきたいと考える。現在、Peatix の利用、自団体の HP、他団体の WEB 掲載、チラシの印刷増量もおこなっている。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

- ・ 自団体の助成金事業以外の活動が忙しい中でも、メンバー間で繰り返し助成金の目的について確認、共有を怠らないこと
- ・ オンライン講座が順調にできるように、機器類の購入と接続の練習、勉強会をすること
- ・ 無料講座の団体には継続した研修の取組みをしてもらえるようにつないでいくこと

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）

